

## 1. 研究目的

エミール・ジャック＝ダルクローズ (Jaques-Dalcroze, Emile 1865-1950) が、音楽と動きを融合し体系化したものがリトミックである。リトミックの当初の目的が音楽的能力の涵養であり、現在でも音楽教育家として J＝ダルクローズの名前は示されるが、体育史上ではリズムを重視する体操の中心人物と位置づけられている。J＝ダルクローズも著作において、少なからず体操に言及しており、体操教育との関わりの中でリトミックを確立していった経緯がうかがわれる。J＝ダルクローズが、音楽のための教育でありながら身体運動を取り入れる、という画期的な方法を構想した背景には何があったのだろうか。J＝ダルクローズが体操改革運動に及ぼした影響とはどのようなものだったのだろうか。本研究においては、まず J＝ダルクローズが体操教育から受けた影響を検討し、次に J＝ダルクローズが、体操教育に及ぼした影響とはどのようなものであったかを考察することを目的とした。

## 2. 研究の意義と独自性

J＝ダルクローズの創案したリトミックは、これまで主に音楽教育の中で捉えられてきた。しかし、リトミックにおける身体運動には、体操教育からの影響があり、また、体操教育に与えた影響もうかがわれる。本研究においては、リトミックをそれらの体操教育と比較し、影響関係を検討することによって、新教育運動の所産である新しい身体教育における J＝ダルクローズの役割を明らかにするものである。体操改革運動における J＝ダルクローズの位置づけが明確になることに本研究の意義を求めることができる。

## 3. 研究方法

J＝ダルクローズの著作の中で述べられている、リング、デルサルト、エバーラについての記述を起点として、これら3名の先達たちの著作で述べられた身体運動、身体表現についての部分を分析することにより、J＝ダルクローズが受けた影響を考察する。また、メンゼンディーク、ボーダらについては、この2名の体操教育者たちの著作を中心に検討し、J＝ダルクローズからの影響について明らかにする。

## 4. 研究内容の概要

### 第1章 スウェーデン体操から受けた影響に関する研究

リングのスウェーデン体操は、それまでの非合理的であった体操に生理学的・解剖学的意味を与え、教育としての体育の発展に意味を持たせると同時に、社会全体の变革をももたらした。J＝ダルクローズは、リングから動きの形成の原則についての示唆を得た。スウェーデン体操においては、「運動には、特定の“始まり”と“終わり”があり、その結果、運動が行われる“中”がある」と動きの形成についての原則が示されている。J＝ダルクローズも、始める感覚、動き回る感覚、止まる感覚の3つの感覚について言及し、それらを、アナクルーズ、クルーズ、メタクルーズという言葉を用いて表し、リトミックの学習において重要視した。筋肉の収縮と弛緩の連続で生まれるリズムは、隣りあった筋肉の集合の中で別のリズムを呼び起こし、人体のあらゆる部分に広がると捉えたのである。

### 第2章 J＝ダルクローズがデルサルトから受けた影響に関する研究

デルサルトを継承したステピンスと J＝ダルクローズの教育内容には高い近似性が確かめられたが、その背景には、近代的な科学や思想を基礎とした身体に関わる教育の改革のうねりがうかがわれる。ステピンス、J＝ダルクローズはともに、解剖学的・生理学的に身体運動のしくみを分析する視点をもつと同時に、心、精神、魂といった内面と体と結びつき、および関係性を重視していた。体操改革運動の中であって、J＝ダルクローズは、デルサルトから感情の表現としての身体という考えを学びつつ、「音楽によって呼び覚まされた情感を身体で表現」するための体作りを目指し、体の機能面、

とりわけ呼吸に関する生理学的な要素も視野に入れ、リズムによる身体運動の体系をさらに発展させたのである。

### 第3章 J＝ダルクローズがエベールの自然的方法から受けた影響に関する研究

J＝ダルクローズは、リズムの意識の形成においては拍子によって秩序を追い求める体操の方法は、「生の自発的な発現という性格を不自然に歪める危険をはらんでいる」と考えていた。しかしその中で、エベールの自然的方法については、運動が連続して行われ、流れを重視しているものと捉え、評価していた。J＝ダルクローズは、自然の動きを基本に置くエベールの運動に、動きの流れ、つまり運動の経過を重視するリトミックの方法との同質性を見出したといえる。そのことによって、J＝ダルクローズは、生き生きとした感情表現のためには、運動能力を兼ね備えた身体養成も欠かせないものとするに至ったこともまた示唆された。

### 第4章 メンゼンディークの体系とリトミックにおける身体運動に関する研究

J＝ダルクローズの教育の理念と方法を、体操改革運動において衛生的・生理学的方向の中心人物、メンゼンディークの体系と比較・検討した。メンゼンディークは、身体に関する知識の獲得と、意志が支配する運動によって女性の解放を目指した。メンゼンディークは、リトミックの音楽による動きとリズムの関係性を否定したが、後継者らによってJ＝ダルクローズの考えは再評価されるに至った。つまり、J＝ダルクローズのリズムを重視する運動の方法の意義は、それを排除したメンゼンディークによって、逆説的に根拠を与えられて認められ、その後のドイツ体操の発展に寄与したことが確かめられた。

### 第5章 ボーデの体操にみるJ＝ダルクローズの影響について

ボーデは、J＝ダルクローズに学びながら新しく表現体操を確立した。ドイツ体操を中心に、音楽と運動を結合した体操によって、一般にも多くの影響を与えた。ボーデはJ＝ダルクローズとの論争が広く知られるが、J＝ダルクローズの教育の考え方や方法の多くを継承し、それに基づいて表現体操を体系化し、普及したことが確かめられた。J＝ダルクローズがボーデに与えた影響は大きく、ボーデの体操、ひいてはドイツ体操の発展にもJ＝ダルクローズが重要な役割を果たしたことが明らかになった。

### 結論 J＝ダルクローズが体操教育から受けた影響とその後の体操教育の発展に及ぼした影響についての研究

J＝ダルクローズは、リングから動きの形成の原則について示唆を得た。つまり、J＝ダルクローズは、動きの出発点と到達点を繋ぎ合わせる流れに意識を向け、筋肉の収縮と弛緩によって、運動にリズムが生まれることを認識した。デルサルトからは感情を表現する身体の見聞を学んだ。そのうえでJ＝ダルクローズは、呼吸と運動を関連づけ、動きの流れと呼吸を結びつけた。エベールの体操は、J＝ダルクローズに運動と運動を連結させることの重要性に確信をもたらした。J＝ダルクローズは、これらの体操教育から身体と表現、動きについてさまざまな点を学び、運動とリズムの要素を結びつけることによって、リトミックの教育法を確立していった。このことは、リトミックにおける身体運動の方法が、行進と四肢の運動を主な内容とするもの（1904年）から、姿勢や重心の移動を含む躍動的な運動（1922年）へと変容していることから示される。このリズムの要素を取り入れたリトミックによって、身体運動に新しい意味づけがなされ、新たな体操の流れを創り、メンゼンディークの体系、ボーデの表現体操に継承された。体操教育、とりわけドイツを中心とする体操改革運動において、J＝ダルクローズのリトミックは、動きにリズムを取り入れて発展してゆくプロセスの中で重要な役割を果たした、ということが本稿における検討により明らかになった。

## 引用文献・参考文献

### 1. 欧文文献

- 1) Bode, Rudolf, *Alte und Neue Pädagogik*: In Pallat, Ludwig Hilker, Franz, *Künstlerische Körperschulung*, Breslau:Ferdinand Hirt,1926
- 2) Bode, Rudolf, *Ausdrucksgymnastik*, München: C.H. Beck, 1926
- 3) Hébert, Georges, *L'Éducation physique ou l'entraînement complet par la Méthode Naturelle. Historique documentaire*, 12es., Edition, Paris, Vuibert, 1947
- 4) Jaques-Dalcroze, Emile, *La Rythmique, La Plastique Animée et La Danse*, Lausanne: Jobin&C<sup>IE</sup>, Editeurs, 1917
- 5) Jaques-Dalcroze, Emile, *Le rythme, la musique et l'éducation*, Lausanne: Jobin&C<sup>IE</sup>, Editeurs, 1920
- 6) Ling, Pher Henrik, *Allgemeine Begründung der Gymnastik*, Magdeburg: Heinrichshofen, 1847
- 7) Mensendieck, Bess M., *Funktionelles Frauenturnen*, München: F.Bruckmann, 1923
- 8) Mensendieck, Bess M., *Körperkultur der Frau*, München: F.Bruckmann, 1906
- 9) Stebbins, Genevieve, *Delsarte System of Dramatic Expression-Scholar's choice*: New York Edgar S.Werner, 1886
- 10) Stebbins, Genevieve, *Society Gymnastics and Voice-Culture Adapted from the Delsarte System*, New York: Edgar S.Werner, 1888
- 11) Stebbins, Genevieve, *The Genevieve System of Physical Training: Enl. Ed.-Primary Source Edition*: New York Edgar S.Werner, 1898

### 2. 和文文献

- 1) エミール・ジャック＝ダルクローズ著、板野平訳、『リズム運動』、全音楽譜出版、1970
- 2) エミール・ジャック＝ダルクローズ著、板野平訳、『リトミック・芸術と教育』、全音楽譜出版社、1986
- 3) エミール・ジャック＝ダルクローズ著、河口道朗訳、『音楽と人間』、開成出版、2011
- 4) エミール・ジャック＝ダルクローズ著、山本昌男訳、『リズムと音楽と教育』、開成出版、2003
- 5) 大谷武一体育選集刊行会編著、『大谷武一体育選集第三巻』、杏林書院・体育の科学社、1960
- 6) 佐々木由喜子著、『リトミックにおける身体表現法に関する研究—20世紀前後の身体表現教育との比較を中心に—』、博士論文、2016
- 7) 清水重勇著、『フランス近代体育史序説』、不昧堂出版、1986
- 8) 菅井京子著、『びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要』第4号、「表現体操の方法論について—ルドルフ・ボーデの『表現体操』より—」、びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ開発・支援センター、2007
- 9) 武田清著、「デルサルートの表現システムについて」『文芸研究』第81号、明治大学文学部文学科、1999
- 10) 新妻弓子著、「Bess M.メンゼンディークの女性体操に関する一考察」、『見形道夫先生退職記念論集 体操とスポーツと教育と』、見形道夫先生退職記念論集刊行会、1989
- 11) ボーデ著、万沢遼訳、『リズム体操—運動課題 300 を含む—』、ベースボール・マガジン社、1962

